



Formula Challenge Japan

2011年6月11日

2011 フォーミュラチャレンジ・ジャパン Rd.6 決勝レース

平川亮が参戦2年目にして念願の初優勝

フォーミュラチャレンジ・ジャパン第6戦の決勝は6月11日(土)16時15分より15周で行われた。朝から降り続いた雨も一段落し、第6戦はスリックタイヤを装着しての戦いとなった。

スターティンググリッドは午前中の第5戦決勝で各自が出したベストタイムの順。これによりポールシッターは第5戦優勝の#17平峰一貴。

しかしセカンドグリッドの#4平川亮と3番手スタートの#9勝田貴元が好ダッシュをみせ、#4平川と#9勝田が並走する形で1コーナーをクリア、そのままコココーラコーナーまでサイド・バイ・サイドのバトルは続き、#4平川が#9勝田を押さえ込んでトップに浮上した。

一旦は3番手まで後退した#17平峰は2周目の1コーナーで#9勝田をパスして2位まで挽回したものの、トップを快走する#4平川との差は次第に広がっていき、逆に2周目に#9勝田を抜いて3位に浮上してきた#11石井一也の猛追を受けることに。

更には#8元嶋佑弥も徐々に追いついてきて、6周を過ぎた辺りから2位争いは3台の団子状態となっていく。

そして8周目、#11石井は#4平峰を抜き去って2位に浮上すると、それまで5秒以上あったトップ#4平川との差を縮めにかかった。9周目には#4平川がコココーラコーナーで飛び出したためにその差は一気に1.197秒にまで接近、12周目には遂にその差は1秒を割り込んできた。

続いて#8元嶋も11周目の1コーナーで#17平峰に並びかけ、コココーラコーナーで前に入る。

#8元嶋も終盤にファステストラップを連発してトップ2台を追い上げるが、#17平峰とドッグファイトを展開する間に#11石井とのギャップは3秒以上に広がっており、追いつくには残り周回数が足りない状況。それでも#8元嶋は1'44.277を記録して明日のポールポジションを獲得して見せた。

反対に抜かれた#17平峰はその後もペースが上がらず、#3近藤翼、#10篠谷大幹にも抜かれて6位でレースを終えることになった。

一方、トップ争いは13周目に#11石井が#4平川の0.731秒差まで迫ったが、追撃もそこまで。結局最後は#4平川が#11石井を0.937秒差に押さえ込んでFCJデビュー2年目にして念願の初優勝を獲得することとなった。

なお、FCJ第7戦決勝は明日6月12日(日)、13時30分より21周で行われる。



TOYOTA NISSAN HONDA





Formula Challenge Japan

優勝：平川亮（東京中日スポーツ賞受賞）

「トヨタ自動車さんを始めスポンサーの皆さん、メカニックのみなさん、保護者にも感謝します。独走だったんですが途中Aコーナーで飛び出してしまう、そこからはミスないように心がけて走りました。今まで2位や3位ばかりで悔しい思いをしてきました。スタートでは動き出したよかったですので平峰選手を抜いて1コーナーに入りましたが、勝田選手が右側に並びかけてきました。Aコーナーまで並ばれましたが押さえることができました」



2位：石井一也

「第6戦も2位表彰台にあがれました。トヨタの地元で平川選手と1-2フィニッシュできたことが嬉しいです。スタートは慎重になりすぎてエンジン回転を落とすすぎてしまいましたでしたが自信を持って追いつけることができました。トップを狙える位置に居たと思いますが、こまごましたミスで詰め寄れなかったのが悔しいです」

3位：元嶋佑弥

「ホンダさん、メカニックのみなさん、両親に感謝しています。今回のレースではシフトにトラブルがでていたので、最初の1周目に順位を大きく落としましたが、そのトラブルと上手く付き合いながら走って良いペースで走れていたため、明日に繋げることができると思います。これまで自分で流れを崩すことが多かったのですが、明日はしっかり勝ちたいと思います」



FCJに関するお問い合わせ先
フォーミュラチャレンジ・ジャパン事務局
〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-3-25
株式会社日本レースプロモーション内
電話：03-3237-0132

TOYOTA NISSAN HONDA

